

執行海秀教授の遷化を悼む

日蓮宗現代宗教研究所顧問、立正大学教授執行
海秀先生が昨年十二月四日、病氣療養の甲斐なく
突然逝去された。望月歛厚博士亡き後、宗学界の
支柱として与望を担われていた執行教授を喪った
ことは、宗学界にとってだけでなく、日蓮宗とし
て余りにも大きな痛手である。本研究所は故執行
海秀教授、海秀院日學上人の聖靈に対し、深く弔
意を表するものである。

執行教授はやく日蓮宗教学史を専攻され、昭
和二十七年その成果を『日蓮宗教学史』として上
梓されたことは記憶に新らしいところであるが、
日蓮教学の現代的究明に深い関心を蔵され、昭和

三十九年、日蓮宗現代宗教研究所設立と同時に顧
問となられた。爾来、本研究所の推進に大きな力
を与えられたが、就中、布教教養シリーズ『日本
仏教の源流』を執筆せられ、また、「宗義大綱解
説」作成に参加せられた。その他、後進の育成に
当られ、本尊論の検討につき指導助言を与えられ
る等、教授が本研究所に貢献された事績は枚挙に
暇がない。

本研究所は教授の遷化を悼むとともに、教授の
日蓮教学の現代的解明に対する熱情を継承すること
を念願するものである。

昭和四十四年二月